

2016年12月9日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 作本 直行

インド国シップリサイクルヤード改善事業
(協力準備調査(有償))
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2016年11月25日(金)13:59～18:01
- ・場所：JICA本部(1階111会議室)
- ・ワーキンググループ委員：作本委員、鋤柄委員、米田委員、石田委員(石田委員はメール審議にて参加)
- ・議題：インド国シップリサイクルヤード改善事業についての助言案作成
- ・配付資料：インド国シップリサイクルヤード改善事業準備調査に係るDFR案事前配布資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第75回委員会)

- ・日時：2016年12月9日(金)14:30～16:53
- ・場所：JICA本部(1階111・112連結会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. EU がビーチングによるシップリサイクルを排除する理由を整理するとともに、本事業で導入する改善策を通してビーチングによるシップリサイクル方式が 2009 年の船舶の安全かつ環境上適正な再生利用のための香港国際条約（通称：シップリサイクル条約）批准の前提条件を満たすと考える根拠を FR に記述すること。
2. 船舶解体方法の代替案比較において、事業を実施しない案及び各解体方式につき、本地域における自然・社会条件を考慮し、FR に具体的にその得失を記述すること。
3. シップリサイクルの需要について、短期と中長期に分けて記述がなされているが、それぞれの予測の特徴ならびに予測に用いた手法について比較できる形で FR に追加の記述を行うこと。

環境配慮

4. 底質調査によれば、事業地においてはカドミウムや鉛などの重金属及び PCB の濃度が高い。本事業では更なる汚染を防ぐべくヤードのコンクリート舗装と大型クレーンの利用により船体の潮間帯への切り落としを減らす解撤方法の導入を行うこととしているが、将来にわたる塗料による汚染リスクを検討し、FR に記載すること。
5. 既存資料等から周辺地域を含めたベースラインデータを整理し、生態系のモニタリング計画に底生生物の生息状況を含めるよう FR で提案すること。
6. リサイクルヤード前面の底質の測定でカドミウムと鉛が比較的高い濃度で測定されており、実施機関や関係州政府機関に対し今後のモニタリング測定の実施を提案すること。
7. 一般廃棄物についての法令を FR の関連法令リストに追加すること。
8. 焼却炉の建設との関連で、温暖化防止への対策について検討し、FR に記述すること。

社会配慮

9. 第 1 回目の SHM で受けた「条約適合施設になるための技術水準を示してほしい」との参加者からの意見に対して、適切に対応するよう実施機関に申し入れること。
10. GMB による労働者居住施設（約 1,000 人収容）の改修計画は労働者の居住環境の大幅な改善が見込まれ環境社会配慮とも関連する課題であると考えられることから、GMB による住居改修計画が実施され改修の有効性が確認された暁には、その後追加で居住施設の建設が計画される際に本事業における工夫や改善点が活用されるよう、労働者の住みやすさの改善に関する考え方、具体的改善策について FR に記載すること。
11. 第 2 回目の SHM の実施結果について FR に記載すること。

その他

12. 本事業ではアラン / ソシヤにおける全シップリサイクルヤードの約 4 割の改修改善を行うものであるため、残りのリサイクルヤードの改善を担当する事業と連携を図りアラン / ソシヤにおける陸海岸域の汚染状況の変化を全体としてモニタリングする旨、FR に記載すること。

以上